

ダミノジッド水溶剤 ビーナイン顆粒水溶剤	取扱メーカー： 日本曹達 原体メーカー： アリスタ LS
成分： ダミノジッド……………80.0% その他 PRTR 該当成分： 直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩〔PRTR・1種〕…1.2%	性状： 黄赤色水溶性細粒 毒性： 普通物 消防法： ——

【品目特性】……………

●ビーナインで処理した植物は、茎の細胞の縦の長さが著しく短くなり、結果として植物の茎や節間が短くなる。

●ビーナインは生長点や生長点付近の若い茎葉に、速やかに集積し、作用を発揮する。従って葉面散布による使用が有利となる。

●有効成分の特性は参考資料の「有効成分特性一覧表」を参照。

【使用上のポイント】……………

〈花 類〉

●節間伸長調節による伸長抑制を目的とし、わい化栽培に使用する。濃度及び使用時期は、花の種類により異なる。

【薬効・薬害等の注意】……………

●銅製剤との混用、近接散布はさける。銅製剤散布後の使用は1カ月以上の間隔をあける。

●本剤散布の前後に使用する銅製剤は、なるべく葉害発生が少ない有機銅製剤を使用する。

●銅製剤を調製した容器や散布に用いた器具は、十分洗浄してから使用する。

●調製の際は水に展着剤を入れ、次に本剤を加えてよくかきまぜて完全にとかしてから使用する。

●徒長防止では、作物の生長点を中心に葉面散布する。

●はばたんについては以下のことを注意する。

○子葉展開後から使用する場合、1回目はは種後10日目を、2回目はは種後20日目を目安に散布する。また3回目は鉢上げ3～5日後、4回目は3回目処理の1週間後を目安に散布する。

○使用時期が遅い場合は、着色が遅延する場合があるので、適切な使用時期を逸さないよう注意する。

●ペチュニアについて以下のことを注意する。

○鉢上げ後に使用する場合、1回目は鉢上げ1週間後を目安に散布し、2回目以降は1～2週間程度の間隔で散布する。

○着蕾期に使用すると花色が薄くなる場合や、花が小型化する場合があるので、着蕾期の使用はさける。

●パンジーに使用する場合、1回目の鉢上げ後1週間後を目安に散布し、以後は1週間程度の間隔で散布する。

●乱用すると生育に悪影響を及ぼすので所定の使用方法を必ず守る。

●花きの伸長抑制に使用する場合、種類、濃度などによって効果の持続期間が異なるので必要に応じてくり返し散布する。



【適用と使用方法】

作物名	使用目的	希釈 倍数	10 a 当り 使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	ダミ/ジッドを含む 農薬の総使用回数	
き く (切花用) (施設栽培)	節間の伸長抑制	500～	50～ 150 ℓ	生育期	4回以内	茎葉 散布	6回以内	
	花首の伸長抑制	5000倍		発蕾期～摘蕾期	2回以内			
き く (ポットマム) (施設栽培)	節間の伸長抑制	200～ 400倍	5～10 ml /5号鉢	摘芯後10～7日 又は定植3日後か ら発蕾初期	3回以内		3回以内	
ポインセチア (施設栽培)		100～ 200倍		定植後3～30日	1回		2回以内	1回
ハイドランジア (施設栽培)					2回以内			2回以内
は ぼ た ん (施設栽培)		200～ 400倍		子葉展開後	4回以内		4回以内	
				鉢上げ後				
ペチュニア (施設栽培)		100～ 200倍		定植後2週間目	1回		6回以内 (水溶剤は 4回以内)	
		200～ 400倍		鉢上げ後	4回以内			
		150倍		摘芯後30～40日	1回			
ア ザ レ ア (施設栽培)		200～ 400倍		摘芯後30～120日	3回以内		3回以内	
		400～ 800倍		本葉5～7枚の時	1回		1回	
パ ン ジ ー (施設栽培)		200～ 400倍		鉢上げ後	4回以内		4回以内	
しゃくなげ (施設栽培)	節間の伸長抑制 着蕾数増加	75～ 100倍	100 ml /5号鉢	新梢伸長完了期を 1回目として3回 処理(1ヶ月間隔)	3回		3回	